

令和3年度  
「関係人口創出・拡大のための中間支援組織の  
提案型モデル事業」成果報告会

団体名：特定非営利活動法人 自伐型林業推進協会

# 持続的な森林経営と地域産業の兼業化による生業の創出

災害の多発地域で、地域グループと協働し「長伐期多間伐施業」(※)による持続的な森林づくりと、多様な森の活動を融合させた魅力創出を行う。

## 地域課題

- ・人口減少・安心した暮らしの欠如
- ・中山間地の「生業」の減少

## 関係人口への期待

- ・防災(林業)の意識の高まり
- ・副業の創出

## 目標

- ・環境保全型林業の担い手増加
- ・「半林半X」のライフスタイル作り

## 受入主体



- ①宮城県 →丸森町から周辺地域へ
- ②熊本県 →球磨川流域
- ③千葉県 →大多喜町から県へ
- ④群馬県 →前橋市GP→軽井沢へ
- ⑤大分県 →日田市の大山林所有者
- ⑥徳島県 (台風被害)
- ⑦静岡県 (伊豆山土石流) 等で機運高まる。

## 担い手の育成

フォーラム・現地視察  
災害を「自伐型林業」  
で解決しようとする関  
心層に伝える。

研修・WS  
実際の担い手を創る。  
副業の可能性を見つ  
けて生業を創る。

## 募集・発信(オンライン)



・熱海GP(左)や丸森GP  
がオンライン番組出演

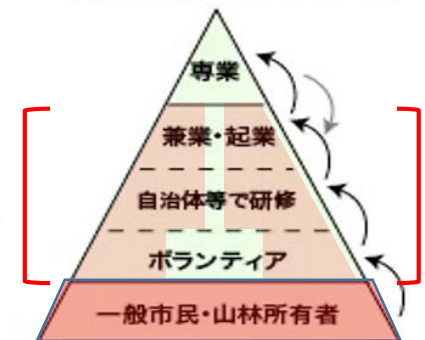


## 新しい「ライフスタイル」発信(オンライン)

## 主なターゲット

- ・災害に関心の高い一般市民(ボランティア系)
- ・山林所有者(地域域内・外)
- ・「半林半X」を志向するサラリーマン ...等

## 自伐型林業のステップアップ

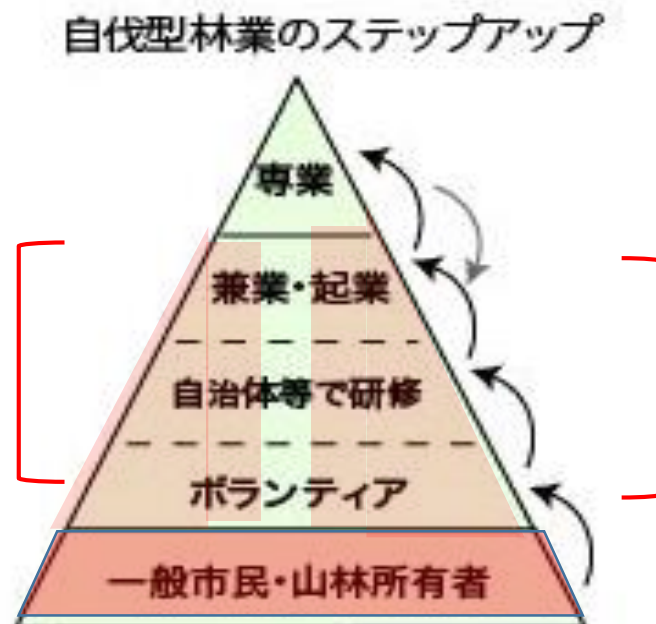
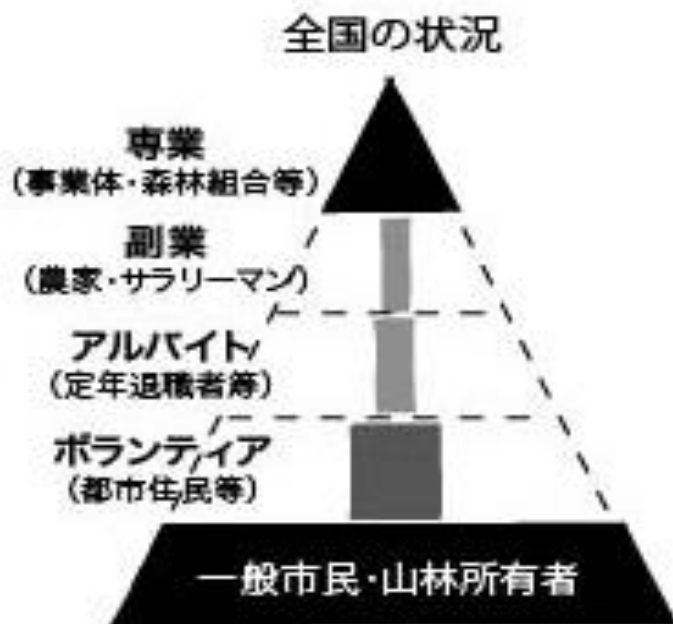


副業から生業創出へ

# 持続的な森林経営と地域産業の兼業化による生業の創出

## 主なターゲット

- ・災害に関心の高い一般市民(ボランティア系)
- ・山林所有者(地域域内・外)
- ・「半林半X」を志向するサラリーマン ...等



副業から生業創出へ

## 2.活動内容

- ①中山間地の生業に貢献する小さな林業「自伐型林業」を地域内で周知させるためのフォーラムを企画し、②現地を見てもらう視察会を開催。  
 ③担い手育成の研修会を開き、さらに実践意欲のある人を中心に、地域の林業支援組織である「地域推進組織」を作るワークショップを企画した。  
 ⑤中核人材が中山間地で十分に暮らせる「半林半X」の生業を創出するために、地域に隠れた仕事の調査を行い発信した。

### 活動内容①②

#### フォーラム・災害視察会開催

1) 関心を掘り起こす「フォーラム」を開催。

- フォーラム1(宮城県丸森町 2021年7月 21日) 110人
- フォーラム2(熊本県人吉市 2021年10月17日) 220人
- フォーラム3(徳島県美波市 2022年2月26日) 40人

2) 地域の現状を知る「視察会」を開催。

- 現地視察会1(球磨川流域 2021年12月1日) 約10人
- 現地視察会2(大分県日田市 2021年12月18日) 約20人
- 現地視察会3(球磨川流域 2022年1月23日) 約20人



(丸森町のフォーラムの様子)



(日田市の視察の様子)

#### 事業成果・KPI達成状況

	項目	達成状況
1	フォーラム・災害現場参加者	330人+徳島+視察=500人程度
2	研修参加者	92人 (のべ173人)

### 活動内容③④⑤

#### ステップアップ研修・ワークショップ開催・生業調査

1) より技術を学ぶ「ステップアップ」研修を開催。

- 研修1(長野県軽井沢市 2021年7月20日~21日 3人)
- 研修2(長野県軽井沢市 2021年10月11日~12日 3人)
- 研修3(宮城県丸森町 9~12月... 80人)

2) ワークショップ (WS) 開催

- WS1(熊本県水上村 2021年6月27日 15人)
- WS2(宮城県丸森町 2021年7月21日 11人)
- WS3~6 (熊本県、宮崎県、長野県、宮城県にて開催)

3) 生業調査

■Youtubeにて発信 (写真参照/左:丸森の福祉×林業 右:熱海の兼業一覽)



#### 事業成果・KPI達成状況

	項目	達成状況
1	ステップアップ研修参加者	15人
2	「半林半X」実践者として「地域推進組織」を組織	2地域で組織

### 3.自立化・自走化の検討

項目	事業で見えた可能性
各地が自立するための体制	・研修会を通じて意欲が出てきた複数メンバーによる「地域推進組織」を地域別に立ち上げ、実践者2人以上と事務局1人で運営する形で自立の道が開かれる。
運営費用	・フォーラムの開催、研修の開催、それに必要な機材経費で100～200万円/年間かかる見込みである。モデル事業実施の結果、 ・①参加者が有償で研修を企画する <b>受益者負担型</b> （宮城県丸森町）のほか、②企業が宿泊プログラム等の商品パッケージにして学びの場をつくる <b>企業連携型</b> （長野県軽井沢町）、③自治体が「担い手育成」による委託事業を建てる <b>自治体事業型</b> （熊本県美里町/球磨川流域の動き）の3パターンが考えられた。
課題と対策	・研修等の学びの場をつくり（機会）、人が交流するための受け皿をつくり（体制）、継続的に企画・発信（運営）できる組織を動かすには、2～3年の試行が必要。 ・内部のメンバーは初めて顔を合わせる関係性が多いため、運営にあたってはメンバーが試行と経験とメンタルケアが必須となる。 ・地域推進組織を企画や相談で後方支援する全国組織（当事業では弊会）との役割分担が大事。

### 4.他地域への横展開の可能性の検討

#### 他地域展開・横展開に必要なこと

「自伐型林業」は中山間地の暮らしに興味があり、環境保全に意識の高い人が集う関係人口創出のための手段の一つだが、「林業」が専門的であるため、狭い世界に閉じこもらないような心掛けが必要となる。

・間口を広げ、多様な人が集う発信をする心掛けを持ちながらフォーラムや視察会などそれぞれの段階で役割を整理して、展開することで、他地域展開にも活かせる。

・地域推進組織のリーダーにはブレない精神が大事。

間口を広げた関係人口を増やす心掛け

・多くの多様な関わり・スキルを持つ人に響くようなアプローチをメッセージとして発信した（林業という専門性や性別に偏りが出ないようにする）。

・関係人口の入り口は狭いが、一度関わりを持った人を取りこぼさない仕組み作り。

